

第3学年 のぞみタイム（総合的な学習の時間）学習指導案

い組 男子16名 女子17名 計33名
指導者 小 蘭 博 臣

1 単 元 ふぞくたんけんたい 山へ行く！！

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子どもたちは、生活科の学習で、生き物を育てたり、地域を探検したり、身の回りの材料を使っておもちゃなどを作ったりする活動を通して、身近な人・社会・自然の面白さや不思議さに気づき、それらとかかわる楽しさを味わってきている。また、自分の思いや願いを基に、気付いたことをまとめたり、発見したことを友達に教えたりする活動もしてきている。さらに、自分の関心や疑問を基に、『自然の中でもっと遊びたい、もっと生き物や植物について調べてみたい』という願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、雑木林での野外活動や校内での製作活動等を通して、自ら林内の自然を生かした活動を決め、作りたい物を工夫して作ったり友達と情報交換したりしながら、自然の面白さや不思議さ、山の自然を守る人々の思いに気づき、自然ためにできることを進んでやろうとする資質・能力を培う。

なお、これらの活動は、『自分とつながっている人々や自然のために、何かしてあげたい』という願いとして、後期単元「附属小から「ありがとう」を伝えよう」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

活動の中心となる雑木林は、かつて里山として利用されていた林で、針葉樹や広葉樹、竹や下草などの植物が多く自生しており、鹿やイノシシなどの動物の痕跡も見られる。また、棚田跡も見られ、人が農地として利用した跡も見られる。さらに、その山では、森林ボランティア団体によって毎月間伐作業が行われており、体いっぱい使って様々な遊びができる上、環境保全に取り組む人々との出会いも生まれる。つまり、この雑木林は、人・社会・自然にかかわる事物・現象が一体となって出現する地域であり、生活科での学習経験を活かしながら取り組むことができる場である。

そこで、本単元の展開に当たっては、主体的・協同的に活動を連続・発展させる資質や能力を培うために、体験活動に向けて見通しをもつ話し合い活動や体験活動後の振り返り活動を重点化していきたい。

具体的にはまず、「発見」の段階で、山を探検するという共通体験を基に、山でやりたい活動について話し合い、一人一人がやりたいことが生かせるような共通課題（テーマ）を設定し、テーマに向けた活動を行う。学校に戻ってからは、次の野外活動に向けて、何をしたいのか、そのために学校で何ができるかをグループごとに話し合い、活動への見通しをもたせる。次に「検証・創造」の段階では、グループで決めた課題や活動を基に、木や竹などを使って工作したり、図書を使って調べたりする活動を設定する。その際、GTからのアドバイスや友達との交流を、自分の取組と関係付けながら、活動が連続・発展できるようにする。そして、再度、現地へ出かけ、自分たちが作った物や調べたことを生かして活動を行う。さらに「参加」の段階では、これまでの活動を振り返り、さらにどんな活動をしていきたいか話し合う。そして、振り返りの中で気付いた自分自身の成長やGTへの感謝の思いを表現する活動として手紙を書く活動を設定し、手紙を郵送する。さらに、手紙の返事として作成したビデオレターでのGTの言葉から、山へのお礼活動へと発展する。ここでは、山へのお礼活動として、山の片付けや間伐作業を行う。

なお、学年経営方針（目指す子ども像：豊かな集団生活を送るために、自分の行動を問い続け、すべきことをよりよく判断し、挑戦できる子ども）を踏まえ、意図的にグループ活動を取り入れたり、活動の目的を問い返したりしながら、主体的・協同的に活動が連続・発展できるようにしたい。

これらの学習を通して、子どもたちは、自分でやりたいことを決めて、自分なりに試行錯誤した

り、友達と協力したりしながら課題解決を繰り返し、自分の力で達成できた喜びを味わうことができる。そうして、身の回りの人・社会・自然と進んでかかわっていきこうとする生き方へとつながっていくと考える。

(3) 子どもの実態（調査人数33人、質問紙法、調査結果は主なもののみ、数字は人数）

表1 山（林や森）で遊んだ経験

回答内容	人数
山（林や森）の中で遊んだことがある。 内訳：アスレチック(11) 探検(11) 植物の採集(8) 昆虫の採集(2)	19
山（林や森）の中で遊んだことがない。	14

表2 山（林や森）のイメージ(複数回答)

回答内容	人数
虫、魚などの小動物	24
木や落ち葉、竹などの植物	23
遊べる場所・楽しい場所	5
川・石・坂道	4
こわい（生き物や暗さが原因）	4
音や風がある	1

表3 山（林や森）でやりたいこと(複数回答)

回答内容	人数
秘密基地作り	30
生き物探し	17
植物探し	14
探検	6

表4 活動中に気を付けること(複数回答)

回答内容	人数
危険な生き物に触らない	17
危険な場所に行かない	10
足元や頭上に気を付ける	9
話をよく聞く・ふざけない	6

本学級の子どもたちは、多くの子どもに山遊びの経験がある。しかし、その多くが、アスレチックであり、整備された林や森での遊びの経験が多いと考えられる。また、表2に見られるように、山のイメージは、そのほとんどが動植物などの自然に関する事柄である。このことから、**子どもたちがイメージする山は、自然が多く、人が山を利用しているというような見方・考え方をほとんどもっていない**と見られる。さらに、山でやりたいことについては、ほとんどが基地作りに興味をもっており、その他、探検や動植物探しなど多様である。野外活動の際、気を付けることとして、動植物の扱いや行動面に関する事を挙げる子どもが多い。

このような実態を基に、学習の展開に当たっては、一人一人が山でやりたいことに安心して取り組み、試行錯誤したり友達と協力したりしながら活動できるようにしていく必要がある。そこで、野外活動の際には、広く雑木林周辺を探検し、人の生活痕が見られる場所を通るとともに、安全に関する指導も子どもの経験を基に話し合う時間を設定し徹底する。また、やりたいことが多様であるため、共通課題として大きなテーマを設定し、各々が自分のやりたいことをできるようにする。さらに、活動の際には、**困ったことや子どもの力ではできないことがあったときには、友達やG Tの協力を得ながら活動できるようにする**。そうして、山が人々によって利用され、山も人も互いに共生していくことが大切であるという見方や考え方に触れさせていきたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 「発見」の段階では、一人一人の関心や疑問を基に活動できるように、共通課題として「3のい山のわくわく基地を作ろう」というテーマを設定し、G Tの協力を得ながら、基地作りの活動を行う。そして、学校に戻ってから、テーマに向けて学校でできる活動について話し合い、**グループで取り組む活動を見出すことができるようにする**。
- イ 「検証」の段階では、多様な情報を得ることができるように、自分の活動に生かすことができるように、G Tからアドバイスをもらったり、図書で調べたり、友達と情報交換をしたりできるようにする。その際、得た情報と自分の活動を関係付けて考えることができるように、自分の発見をカードにまとめて、友達との共通点や差異点に気付くことができるようにする。
- ウ 「創造」の段階では、再度、山へ出かけて、それまでに準備してきた物や調べてきたことを生かして、活動できるようにする。その際、それまでに継続して取り組んできたことや現場で工夫して取り組むことができたことへの価値付けを行い、活動への達成感をもたせるようにしたい。
- エ 「参加」の段階では、さらに、山にかかわっていきこうとする思いを高めるために、それまでの取組を振り返り、自分の工夫や頑張り、成長に気付かせる。そして、G Tへ手紙を書く活動や山のお礼活動（山の片付けや間伐作業）へとつなげていく。

3 目 標

- (1) 野外活動やグループによる話し合いを基に、グループで取り組む活動を見出すことができる。
- (2) これまでの経験やG Tからのアドバイス、図書資料などを生かして、試行錯誤しながら自分なりに工夫しながら活動を行うことができる。
- (3) 自分と友達の活動や工夫を比べて、共通点や差異点について考えながら取り組むことができる。
- (4) 活動を通して、気付いたことや感じたことを分かりやすく、カードや手紙に書くことができる。
- (5) 自分の追究過程を振り返り、これからも人・社会・自然とのつながりを大切にしていこうとする願いをもち、自分の活動に生かして取り組むことができる。

4 指導計画（全30時間）

過程	主な学習活動と子どもの関心や疑問	時間	教師の具体的な働きかけ
発見	1 「山」についてイメージを広げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動植物がいっぱいありそうだね。 ・ どんな活動ができそうかな？ ・ 山遊びをしてみたいな。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山に対するイメージを広げ、活動への意欲を高めるために、ウェビングで思考の広がりを可視化できるようにする。 ○ 安全への意識を高めることができるように、写真を使って具体的に指導を行う。 ○ 安心して野外活動に取り組むことができるように、活動場所である雑木林の周辺を探検する。その際、動物や人間の生活痕にも気付かせる声かけをする。 ○ 互いに協同的に活動できるようにするために、山探検での思いを基に、大きな目標としての学級テーマを設定する。 ○ G Tとのかかわりを深めることができるようにするために、グループに一人のG Tを付けて、アドバイスをもらいながら活動できるようにする。 ○ 安全に活動できるようにするために、活動範囲の境界木に、テープを巻き付け、活動範囲が見えるようにする。また、木を切る場所を限定し、必ず大人が付くことができるようにする。
	2 山に行く計画を立てる。	1	
	3 山探検をして、できそうなことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基地作りをしてみたい。 ・ いろんな工作をしてみたい。 ・ もっと植物や動物を探してみたい。 		
	4 グループで協力しながら、基地作りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">3のい山のわくわく基地を作ろう</div>		
検証	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 探検（採集） ・竹の枝を集めて、家の材料にしよう。 ・つるを集めてひもにしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 家作り ・竹の枝を差して、壁にしたよ。 ・落ち葉を集めて、地面に敷いたよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> インテリア作り ・丸太をテーブルや椅子にしよう。 ・実や花を使って、家の飾りを作ろう。 </div> </div>	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校で取り組む活動を見出すことができるようにするために、野外活動への思いを基に、互いにやりたいことなどを交流する活動を設定する。 ○ 多くの情報を得ながら、課題追究できるように、教室内に図書コーナーやG Tからアドバイスコーナーを設置する。 ○ 友達の発見を自分の取組に生かすことができるように、友達との情報交換する活動を設定したり、子どもの発見を発見カードに書かせて、それらを自分の取組と関係付けながら新たなアイデアを見出す活動を設定したりする。
	5 学校でできる活動について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">山のわくわく基地で使う物を作ろう</div>	1 (本時)	
	6 基地作りに向けて、グループで話し合った活動を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> 看板等作り ・木の板を使って看板を作ったよ。 ・基地の旗を作ったよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> おもちゃ作り ・竹で弓矢を作ったよ。 ・枝をつなげて、鉄砲を作ったよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> インテリア作り ・葉っぱや木の実で飾りを作ったよ。 ・竹でお皿を作ったよ。 </div> </div>	7	
創造	7 学校で作った物を持っていったり、学校で調べたことを実際にやったりして、基地作りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ やった。基地の完成だぞ！！ 	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動への達成感をもたせるために、それまでに継続して取り組んできたことや現場で工夫して取り組むことができたことへの価値付けを行う。また、G Tに、山と人間とのつながりについて語ってもらう。 ○ G Tへの感謝の気持ちをもたせるために、楽しい活動を支えてくれたことや自分自身の工夫や頑張り、成長があったことに気付かせ、その思いをどのように伝えるのかを話し合う活動を設定する。 ○ これからの学習や生活に生かすことができるように、G Tに手紙を書かせ、山へのお礼活動（片付けや間伐）を設定する。
	8 学習を振り返り、山やG Tの人たちに対して、自分たちにできることについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ G Tの方々にお礼の気持ちを伝えたい。 	1	
参加	9 G Tにお礼の手紙を書く。	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ これからの学習や生活に生かすことができるように、G Tに手紙を書かせ、山へのお礼活動（片付けや間伐）を設定する。
	10 山へのお礼活動として、片付けや間伐作業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ G Tの方々や山にお礼ができたね。 ・ 山は、人によって支えられている。僕らも、自然によって支えられているんだね。 	6	

5 本 時 (9 / 30)

(1) 目 標

前回の野外活動で行った基地作りを基に、次の野外活動に向けてやりたいことをグループで話し合い、今後の自分たちの活動を見出し、具体的な見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、方向性の決定を目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、やりたいこと・やらなければならないことなどを付箋に書かせて、活動計画表に貼ったり操作したりする活動を設定する。その際、「必要な道具や教材は何か?」「活動の時期や順序は、それで良いかな?」と問いかけ、必要な材料や事柄、活動の順序といった視点で見直すことができるようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動と子どもの関心や疑問	時間	教師の具体的な働きかけ
発見	1 本時の学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 先週は楽しかったな。また行きたいな。 次のわくわく基地作りまで、学校で何をしようかな? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">次の基地作りに向けて、活動計画を立てよう。</div>	10	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で、交流しながら話し合いを行うことができるようにするために、活動グループでまとめた机の配置を行う。 前回の活動の様子を想起させるために、活動時の写真を見せ、野外活動で思ったことやもっとやりたいことなどを問いかける。
	検証		
創造	3 グループの活動計画表をまとめる。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6月初め</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">終わり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7月</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">看板・旗作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボランティアの方と箸作り教室</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わくわく基地完成</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">インテリア作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本調べ</div> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動中は、グループによる話し合いに入り、子どもの意見を引き出したり価値付けたりする。 次の活動までの見通しを、時系列で捉えることができるようにするために、計画表にまとめる活動を設定する。その際、時間軸ごとにまとめられるワークシートを用いる。 今後の活動に向けて、自信や意欲をもって取り組むことができるようにするために、本時で見られた良い取り組み方や新たな活動を具体的に見出すことができたことを価値付ける。その際、子どもたちの思いの高まりを自覚的に捉えることができるような板書を行う。
	参加		